

(仮称)北校と(仮称)南部コラボセンターの基本設計に関する説明会・質疑応答(概要)

○日時:平成31年(2019年)3月23日(土)10:00~12:00

○場所:庄内公民館 3階 集会室

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>これまで庄内介護予防センターで利用できたお風呂を(仮称)南部コラボセンターに作らないのはなぜか。</p>	<p>介護予防センター(原田・柴原・庄内・千里)における入浴事業については、全市的に平成31年度(2019年度)で終了することとなっているため、平成34年(2022年)完成予定の(仮称)南部コラボセンターについても入浴施設は設けないこととしています。</p>
<p>上田病院の移転と土地取得について説明してほしい。</p>	<p>このたび、上田病院から協力の申し出があり、学校用地として活用できるかどうかを今後検討し、活用できる可能性があれば、用地取得に向けて話を進めていくこととなります。活用方法としては、グラウンドの一部とすることなどが考えられます。</p>
<p>メイングラウンドは主に中学生が部活動で利用することが想定されるが、防球フェンスに囲まれたグラウンド内の砂場や鉄棒、登り棒は小学生が放課後に利用できないのではないのか。遊具の配置はこれで決定か。</p>	<p>遊具の配置はイメージです。今後、利用しやすい配置を検討します。</p>
<p>5~9年生用の入り口に門がないように見えるが、セキュリティ面が心配である。</p>	<p>セキュリティについては重要だと考えていますが、学校の周囲全てをフェンスで囲むこと等は想定していません。5~9年生が主に使用するあいさつロード側の入り口については、登下校時には警備員等を配置し、その他の時間帯は扉の施錠をすることを想定しています。</p>
<p>公用車の駐車場の後ろ側がネットスペースになっているが、駐輪場にするなどの案はなかったのか。駐輪場の数は多いほど良いのではないのか。</p>	<p>駐輪場については、現在の計画上の広さで対応できると考えています。駐輪場は多い方が良いというご意見はごもっともですが、敷地の東側は民家と接していることから、余裕を持たせた設計としています。また、建物を開発する際には緑化する必要があることから、敷地全てを施設や建物で使うことができず、扱いにくい土地を緑化し、全体の調和を図っています。</p>
<p>災害時に避難所となることを考えると、お風呂やトイレは必要なのではないか。</p>	<p>仮に入浴施設があったとしても、断水などが発生して使用できなくなることが考えられます。避難生活が長期化した場合には、例えば、仮設のお風呂を(仮称)庄内さくら学園のグラウンドに設置するというような対応が考えられます。</p>

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>校区編成について、島田小学校区の子どもで第七中学校に通っている子どもがいるが、どのようになるのか。第七中学校は島田小学校区内にあり、第十中学校はかなり遠い。目の前に第七中学校があるのに第十中学校まで通うことになるのはおかしいのではないか。</p>	<p>平成 32 年度（2020 年度）に庄内・野田・島田小学校区が庄内さくら学園中学校の校区になります。島田小学校区のお子様は、庄内さくら学園中学校に進学することになりますが、上のお子様は第七中学校に通っている場合は、希望されれば、下のお子様も第七中学校へ通うことができます。</p> <p>教育委員会としては、庄内さくら学園中学校の開校のタイミングで分割校課題を解消したいと考えており、その経過の中で一部のお子様にはご不便をおかけすることになりますが、ご理解をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>工事期間中に震災などが起こった場合は、どこへ避難すればよいのか。</p>	<p>工事期間中は、お近くの避難所に避難していただくこととなりますが、実際にどの地域の方がどの施設に避難するかについては、危機管理課と調整し、今後、みなさまにお知らせしたいと考えています。</p>
<p>工事期間中は公民分館活動をどこで行えばよいのか。</p>	<p>屋内活動については、庄内市民センター（庄内出張所 2 階）を利用していただくことを考えています。また、体育館やグラウンドについては、近隣の小学校の学校開放委員会と調整し、分館活動を含む地域活動が円滑に継続できるようにしたいと考えています。</p>
<p>説明会のたびに工事期間が伸びており、子どもも先のことに不安を感じている。計画が噂レベルで広がっているところが保護者にとって不安になっている。工事が伸びて 3 年になっていることもまだ保護者には何の通達もない。在校生の保護者だけでなく、これから入学する生徒の保護者にとってもきちんと説明することで不安が解消されるのではないか。稲津町にお住まいの方がどうなるのかも正式には伝わっていない。今後どのように伝えていくのか見通しだけでも教えていただけたら安心するのではないか。</p>	<p>基本設計が完了し、実施設計に移っていく過程において、工期のことなどがわかってきたところです。今後、紙媒体や市ホームページ等を通じて情報発信していきます。</p> <p>稲津町 1～3 丁目は調整区域であり、本来は豊島小学校区ですが、希望すれば近くの野田小学校に通うことができます。教育委員会としては、同じ地域の子どもたちは同じ学校に通うことが望ましいと考えているため、（仮称）庄内さくら学園の開校をもって調整区域は解消する方針です。経過措置を含めて、当該校の PTA の役員会ではご説明させていただきましたが、今後、紙媒体などで情報提供をしていきます。</p>
<p>（仮称）南部コラボセンターに入る施設の方や利用する方が、子どもたちの教育の場を削って建てることに、どこまで納得しているのか。</p>	<p>（仮称）南部コラボセンターの果たす役割について、学校はとも期待しています。（仮称）南部コラボセンターの 2 階には公共図書館や児童生徒の相談室があり、放課後の居場所も含めて連携を取っていきたいと考えています。学校と（仮称）南部コラボセンターを一体的に整備することについては、今後ともみなさまにご理解いただけるよう丁寧に説明してまいります。</p>

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>校舎の構造について、今は南側からグラウンドの様子が見られるが、新しいグラウンドは周りが建物で囲まれていて子どもたちの様子を外から見るができない。また、体育館が2階にあるが、災害時に足の不自由な方などはどのように上がるのか。</p>	<p>グラウンドには目隠しのフェンスを全てに張るというわけではなく、植栽で囲む形にすることによって学校と地域が別々にならないように、地域の中にある学校という設計を考えています。また、大小アリーナを2階に設けているのは浸水対策のためです。停電時の具体的な対応は今後検討していきますが、避難所として想定しているため、市内で初めて学校の体育館に冷暖房を設置することとしています。</p>
<p>学校跡地の利活用について、防災機能・地域の活動・教育向上の場と3点上げられているが、これは今の小学校と同じである。そもそも小学校はそのような場であって、わざわざ跡地をそのような場にするというのが疑問である。それならば今のままで良いのではないか。</p>	<p>学校跡地については、現在、方向性を検討する段階であり、具体については、今年の夏から秋ごろにご説明したいと考えています。</p>
<p>校舎が南側に建っていると、グラウンドの半分以上は一日中日陰になるのではないか。本来校舎は北側に建てて日当たりの良い所にグラウンドがあるのが普通だが、こんな建て方でいいのか疑問である。また、フェールについて1年生は4階まで上がって80メートル北に向かって歩いて行かないといけない。同じフェール内で小学生と中学生を同時に指導しないといけないのも課題があるのではないか。</p>	<p>南側に校舎があることで一定陰ができることが想定されます。しかし、放課後子どもクラブは1階建ての平屋であり、ご指摘のようにグラウンド全面が日陰になるということにはなりません。また、校舎が大きくなり、移動が大変になるというのはある程度はやむを得ないことであると考えています。</p>
<p>つくば市には1,000人を超える小中一貫校がたくさんあるが、第三者委員会によるメリット・デメリットの検証を行い、8月にその結果を出している。様々なデメリットがあって今後義務教育学校をつくらない、1,000人以上の学校をつくらないと結果を出しているが、このことについて豊中市はどのように考えているのか。</p>	<p>つくば市には施設一体型と連携型の小中一貫校があり、施設一体型については、学校選択制ということもあり、当初の1,000人から2,000人にまで児童生徒が増え、大変な状況になったようです。豊中市では学校選択制の導入はしませんので、その心配はないと考えています。全国の小中一貫校や義務教育学校の事例を参考に、想定される課題については対策し、同様のことが起こらないように準備したいと考えています。</p>

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>大阪市内では空き地に大型マンションを建設した結果、急に子どもが増えて校舎も足りず子どもがあふれている。南部地域の活性化について、将来人口が増えると予測しているのか、どのような未来像を描いているのか。先日、テレビで放映された「関西の住みよい街ランキング」で豊中市が1位だったが、南部地域活性化構想で南部地域の人口が増えた場合、キャパシティが小さすぎるのではないか。</p>	<p>学校の規模については、開校当初は1,000人程度、各学年3～4クラスを想定しています。また、児童生徒の増加に備え、1学年5クラス分まで整備することとしています。</p> <p>南部地域の人口推移については、昭和45年（1970年）から減り続けており、ピーク時に約11万人だったところが直近では5万5千人となっています。南部地域活性化構想や義務教育学校の開校等で何とか減少に歯止めをかけたいと考えています。日本全体が人口減少に突入している中、この地域だけが一気に増えることは難しいかもしれませんが、子育て世代がこの地域に住みたいと思ってもらえるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>
<p>低学年の孫が庄内小学校から野田小学校へ通う予定だが、通学路が心配である。工事が2年から3年に延びたがその時期はとても大切だと思う。この3年間をどのように過ごすのかを校長先生が説明されたときに、野田小学校と庄内小学校が別の活動をすると聞いた。そのようなことを聞くと運動会や学習発表会はどうするのか等々、様々なことが心配である。</p>	<p>今年度は、庄内小学校区から野田小学校への通学路を庄内小学校主催で見守りボランティアや保護者、市職員で実際に歩き、特に校区のつなぎ目部分を重点的に検証しました。今後、担当部局と連携し、改善を行っていきたいと考えています。</p> <p>工事期間の過ごし方については、まずは庄内小学校と野田小学校が同じ校舎で学び、学校は2つ、校長も2人になりますが、職員室は1つで特別教室も共用することになります。現在、庄内・野田・島田小学校の教職員で行事や学習内容をどうするかを検討を進めているところであり、決まったことなどは情報発信していきたいと考えています。</p>
<p>南部地域活性化構想の夢や希望はわかるが、住民は学校や子ども園がなくなってどうなるのか、お風呂もなくなり南部地域はこれからどうなるのかすごく不安がある。そこはくみ取っていただきたい。</p>	<p>庄内地域の実情に応じた教育効果を得られる最善の方策として、学校を再編し、新しく義務教育学校を設置するものですが、豊中市では初めての試みであり、既存の学校がなくなることによる不安があるということは、これまでの説明会などでも伺っています。子どもたちには「良い学校に通えた」、地域の方々にも「良い学校ができた」と思ってもらえるような学校づくりをめざしており、それには地域のみなさまのご協力なしにはできません。みなさまとともに子どもたちが笑顔で過ごせる学校にしていきたいと考えています。</p>